4	春 日 井	春日井市立藤山台中学校　　松原（まつばら）　弘明（ひろあき）

分科会番号　3	分　科　会　名	社　会　科　教　育（中学校）

主権者としてよりよい社会づくりへ参画する力を育てる社会科学習

「ごちゃまぜのまち」ノキシタプレイス - 持続可能な地域経済をめざして -（中学３年）

１　主題設定の理由

現代社会はグローバル化や情報化がよりいっそう進展し、AI技術のめざましい発展など、複雑で変化が激しく未来予測が困難な時代である。また、さまざまな価値観をもつ人との相互理解と、困難な課題に対する一人ひとりが主体的にかかわろうとする意識の改革が不可欠である。これからの社会を生き抜く子どもたちには、社会の実態や変化を理解するだけでなく、自分が得た知識や見方・考え方を働かせながら課題解決にむけて自分自身で判断し、行動できる力が求められている。

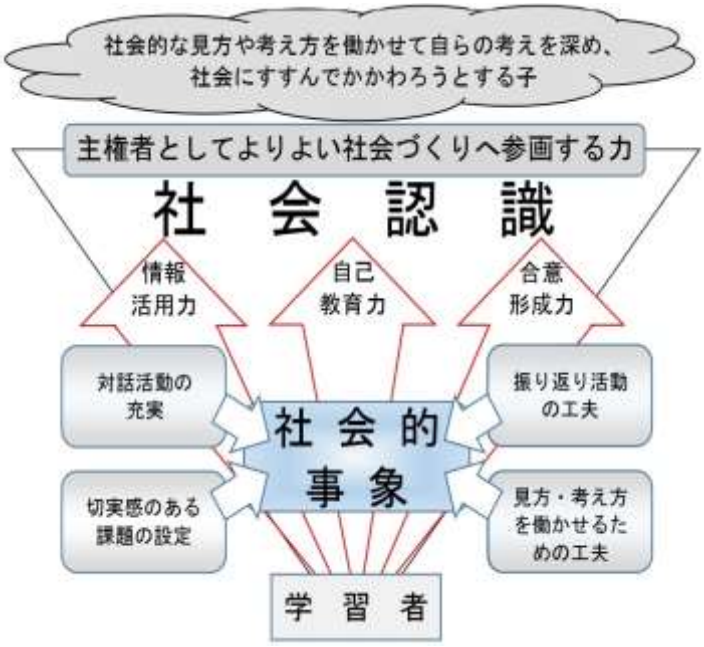
そこで、研究題目を『主権者としてよりよい社会づくりへ参画する力を育てる社会科学習』とし、めざす子ども像を「社会的な見方や考え方を働かせて自らの考えを深め、社会にすすんでかかわろうとする子」と設定した。

２　本研究でめざす子ども像

社会的な見方や考え方を働かせて自らの考えを深め、
社会にすすんでかかわろうとする子

３　めざす子ども像に迫るために必要な能力

〇必要な情報を手に入れ、情報を整理・分析して意見形成に生かす力　（情報活用力）
〇情報や他者の考えをふまえ、自分の考えを深化させる力　（自己教育力）
〇たがいの立場や意見を尊重し、対話を通して納得解を見出す力　（合意形成力）



【社会科学習構造図】

４　能力を育むための手だて

(1)　切実感のある課題の設定

当事者意識をもって課題に取り組めるように切実感のある課題を設定する。そうすることで自ら課題解決に取り組む意欲を高め、主体的な学びを促進することができると考える。

(2)　見方・考え方を働かせるための工夫

主権者として社会参画する力を育むためには多面的・多角的に社会的事象をとらえ、考えることが重要である。多くの資料を協働的に読み取ったりゲストティーチャーの話を聞いたりすることで、当事者の思いをふまえ、さまざまな見方・考え方を働かせることができるようになり、情報活用力や自己教育力が育まれると考える。

(3)　対話活動の充実

考えを伝える際には、整理・分析した情報をもとに、自分の主張やその根拠となる資料を示しながら対話することで、新たな気付きや視点を得られる。この対話を立場や考えの違う他者と繰り返し行い、何度も自分の考えを練り直すことで、情報活用力や合意形成力が育まれると考える。

(4)　振り返り活動の工夫

主権者として学び続けるためには、自己の学習を振り返り、理解を深めて次のステップにつなげることが重要である。振り返り活動を通して自己の学びを確認し、成長を実感したり課題解決への足がかりとしたりすることで、自己教育力が育まれると考える。

５　授業実践例

(1)　単元名　「ごちゃまぜのまち」ノキシタプレイス - 持続可能な地域経済をめざして -（中学３年）

(2)　単元の目標

ア　持続可能な社会をつくるために、地域経済はどのような役割を果たすべきか理解することができる。

イ　新商品を企画する活動を通して、社会的な見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを表現することができる。

ウ　持続可能な社会をつくるための地域経済の役割について考えることを通して、地域の一員として主体的に社会にかかわろうとしている。

(3)　単元の指導計画

ア　単元設定の理由

本校は、高度経済成長期に整備された高蔵寺ニュータウンの一画に位置しており、学区内の小学校が統廃合されるといった少子化の影響を大きく受けている。そのため、２年前の実践では、廃校となった西藤山台小学校跡地の活用法をテーマとした実践を行った。ニュータウンに暮らす多世代の意見や市の取り組みなどのさまざまな側面をふまえながら考えを構築することで、多面的・多角的な視点で社会的事象をとらえることや、根拠をもとに話し合い、自他ともに受け容れが可能な考えを導き出すことができた。しかし、社会的な見方・考え方を十分に育成できていない状態で実践がすすんでしまったため、教員が提示した見方・考え方を使って課題解決を行う実践となってしまった。

そこで「これからの経済と社会」の単元の中で、再び西藤山台小学校跡地を取り上げ、過去の実践の反省をふまえて本実践を行った。本実践では、新しく西藤山台小学校跡地にオープンする複合型施設「ノキシタプレイス」を教材化し、店を経営する社会福祉法人「まちスウィング」や地域で商品開発を行っている企業「ファインシンター」の話を通して、地域素材から社会的な見方・考え方を育んでいきたい。そして、ノキシタプレイスに出店するコミュニティカフェの新商品を企画する活動を通して、社会的な見方・考え方を働かせながら課題に取り組むことで、深い学びを実現したい。さらに、対話的な活動を通して、社会的事象に対する考えを広げたり、深めたりすることにもつなげていきたい。また、このような活動を通して、持続可能な社会をつくるための地域経済の役割について理解を深め、地域の一員として主体的に社会にかかわろうとする態度を育てていきたい。

イ　生徒の実態

これまでの学習を通して、多面的・多角的な視点で社会的事象をとらえ、考えを構築することができるようになってきた。また、他者と話し合う際、説得力のある資料を用意したり根拠を示したりして、考えを他者に伝えることもできている。しかし、社会的な見方・考え方を社会的事象の中から見出し、活用して課題に取り組むことができている生徒は少ない。実践前に主体的に社会にかかわろうとする意識についてアンケート調査を行った結果、地域や社会にすすんでかかわろうとする気持ちが「ある」と答えた生徒の割合は11%「どちらかといえばある」と答えた生徒の割合は68%「どちらかといえばない」と答えた生徒の割合は21%であった。

(4)　授業展開（９時間完了）

時	生　徒　の　学　習　活　動
1	**西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか考えよう** ○現在の西藤山台小学校跡地について知っていることを共有する。 ○ノキシタプレイスとして、オープンすることを知る。 ○西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか考える。 **単元を貫く課題　西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか**
2	**「ノキシタプレイス」の経営に携わっている方の話を聞こう** ○ノキシタプレイスが計画されるまでの経緯について話を聞く。 ○ノキシタプレイスをこれから経営していく上で、どのようなことを大切にしているのか話を聞く。 ○コミュニティカフェの新商品の企画をしていくことを知る。
3	**新商品を企画するためには何を大切にすればよいか考えよう** ○振り返りを共有し、情報を整理する。 ○新商品を企画する上で、必要な視点を話し合う。 ○商品企画をしている企業に話を聞く計画を立てる。
4	**商品企画をしている企業の話を聞こう** ○コオロギラーメンを商品として企画した理由や経緯について話を聞く。 ○商品を企画する際に大切にしている視点について話を聞く。

5 6	**コミュニティカフェの新商品を企画しよう** ○パフォーマンス課題に取り組む。
7 8	**班で企画書を作成しよう** ○各自の企画を発表し合い、意見交換する。 ○ピラミッドランキングを活用し、重要度の高い視点を意識する。 ○話し合いをもとに、班で企画書を作成する。
9	**西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか考えよう** ○班で作成した企画書を発表する。 ○西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか考える。 ○単元を通しての振り返りを行う。

(5)　授業実践の記録および資料

〈第１時〉西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか考えよう

【資料１　ノキシタプレイス計画図】

はじめに、現在の西藤山台小学校跡地の写真を提示し、西藤山台小学校跡地について、知っていることを交流する時間を設けた。すると「春日井市の広報紙の中で、いろいろな種類の店ができると紹介されていた」「商業施設だけではなく、病院や老人ホームなどの施設もつくられるみたい」「市役所の方が活用法について説明会をしていた」など、さまざまな意見が出てきた。そこで、西藤山台小学校跡地につくられる複合型施設「ノキシタプレイス」についての資料を提示し、感想を交流する時間を設定した（資料１）。「高齢者が利用しやすい施設が多いのは高齢社会に合っている」「高齢者だけでなく学生が楽しめる場所もほしい」「どのような人が働くのだろう」「高蔵寺ニュータウンが活気を取り戻すきっかけになってほしい」など多面的・多角的に考えられた意見が聞こえてきた。その中で「自分たちが通っていた小学校だから、うまく活用してほしい」と話す生徒がいたので、全体で共有し、小学校が統廃合されたときの気持ちを交流するとともに、西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか考えさせた。生徒からノキシタプレイスについてもっと詳しく知りたいという声がたくさん上がったので、ノキシタプレイスを経営している社会福祉法人「まちスウィング」の方から話を聞くことにした。

〈第２時〉「ノキシタプレイス」の経営に携わっている方の話を聞こう

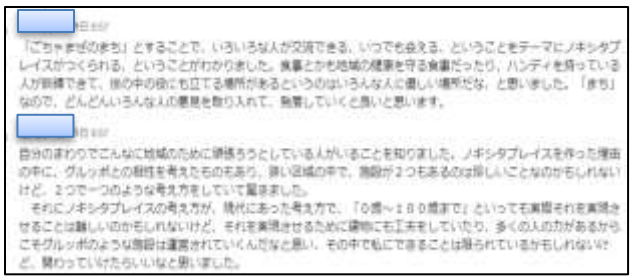
【資料２　まちスウィングの方の話】

ノキシタプレイスを経営している社会福祉法人まちスウィングの方から、ノキシタプレイスが計画されるまでの経緯やノキシタプレイスを経営していく上でどのようなことを大切にしているのかというテーマで話を聞いた（資料２）。

「高度経済成長期に整備された高蔵寺ニュータウンは、市内の他地域に先行して少子高齢化に伴うまちの課題が顕在化していること」「藤山台地区では小学校の統廃合が行われ、藤山台東小学校跡地が多世代交流施設グルッポふじとうとなり、西藤山台小学校跡地についても活用法が議論されてきたこと」「この地域に必要なものは０歳から 100 歳まで誰もが集える場所だと考え、ノキシタプレイスを計画してきたこと」「ＳＤＧｓが大切にしている『持続可能で誰一人取り残さない』という理念にもとづいてノキシタプレイスを経営していること」などを教えていただいた。生徒からは「ノキシタプレイスがあることによって、特定の立場の人ではなくて、みんなにとって安心できて過ごしやすいまちになる」「グルッポふじとうより、幅広い年代に利用される施設となっている」「身近だった場所がノキシタプレイスとして生まれ変わって、とても楽しみになった」など、さまざまな意見が出た。そして、質疑応答の場面では、生徒からの質問に答えていただき、ノキシタプレイスや地域経済についての理解を深めることができた。最後に、まちスウィングの方から、この地域に住む中学生にも、ノキシタプレイスにオープンするコミュニティカフェの商品を企画してほしいという話をいただいた。

〈第３時〉新商品を企画するためには何を大切にすればよいか考えよう

はじめに、ノキシタプレイスにオープンするコミュニティカフェの新商品を企画するためには何をすればよいか話し合った。生徒は商品の企画をした経験がなく、どのようにしたらよいのかわからない様子だったので、前時の振り返りをチャットで共有し、まちスウィングの方の話の内容を確認した（資料３）。ノキシタプレイスのコンセプトに合わせた商品



「こちゃまぼのまち」とすることで、いろいろな人が交流できる、いつでも会える、ということをテーマにノキシタプレイスがつくられる、ということがわかりました。食事とかも地域の健康を守る食事だったり、ハンディを持っている人が訓練できて、後の中の後にも立てる場所があるというのはいろんな人に優しい場所だな、と思いました。「まち」なので、どんどんいろんな人の意見を取り入れて、発展していくと良いと思います。

自分のまわりでこんなに地域のために頑張ろうとしている人がいることを知りました。ノキシタプレイスを作った理由の中に、グルッポとの相性を考えたものもあり、狭い区域の中で、施設が２つもあるのは珍しいことなのかもしれないけど、２つで一つのような考え方をしていて驚きました。

それにノキシタプレイスの考え方が、現代にあった考え方で、「０歳～１００歳まで」といっても実際それを実現させることは難しいのかもしれないけど、それを実現させるために建物にも工夫をしていたり、多くの人の力があるからこそグルッポのような施設は運営されていくんだなと思い、その中でも私にできることは限られているかもしれないけど、関わっていけたらいいなと思いました。

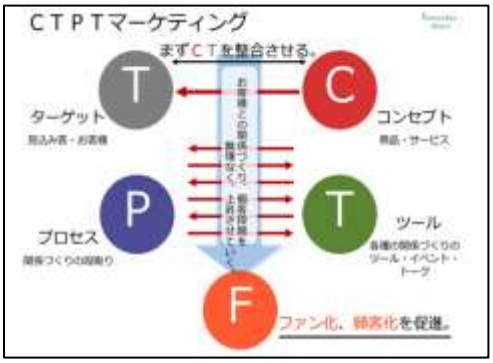
【資料３　チャットでの振り返りの共有】

開発を考える生徒が多くいたが、多様な視点で考えてはいるものの、何を大切にしていけばよいのかわからず困っている様子であった（資料４）。そこで、先行実施されているグルッポふじとうのコミュニティカフェにはどのような商品があるか聞いてみると「コオロギラーメン」の話が出てきた。春日井市のふるさと納税の返礼品にもなっており、グルッポふじとうを利用する生徒たちにとって、コミュニティカフェに置かれている見慣れた商品である。コオロギを使って商品開発を行った経緯について疑問の声が上がったので、コオロギラーメンを製造している「ファインシンター」について調べた。すると、ファインシンターはトヨタ関連の企業で、自動車部品の製造を行っていることがわかった。自動車部品とコオロギラーメンが結びつかず、なぜコオロギラーメンを開発したのか知りたいと口にする生徒がたくさんいたので話を聞いてみることにした。

【資料４　話し合い活動の様子】

〈第４時〉商品企画をしている企業の話を聞こう

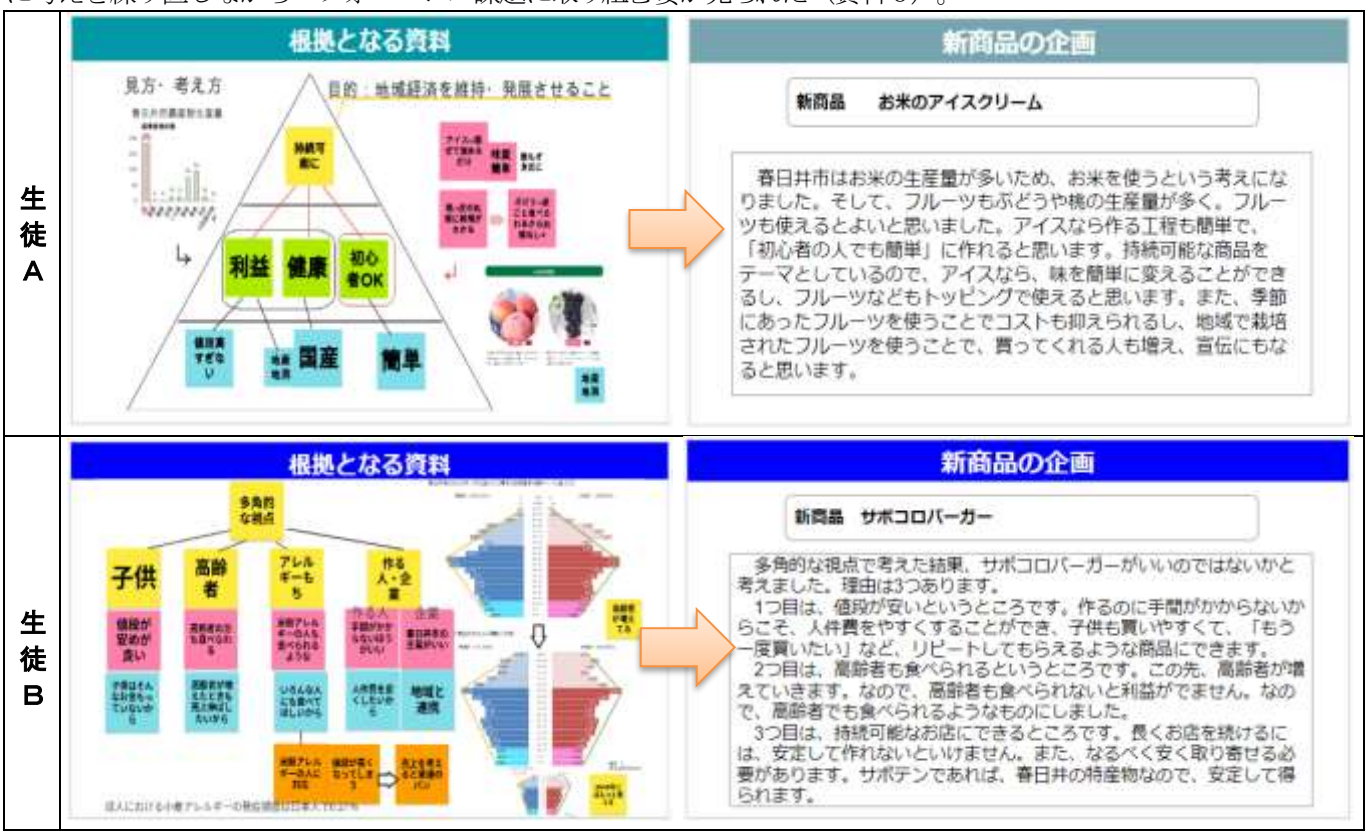
コオロギラーメンを製造している「ファインシンター」の方から、コオロギラーメンを商品として企画した経緯や商品企画の方法について話を聞いた。ファインシンターは、トヨタ自動車の関連会社ではあるが、新事業として会社の得意分野である粉末を扱う技術を生かし、高資源・高エネルギー食品の開発をめざして昆虫食に目をつけたことを教えていただいた。また「ＣＴＰＴマーケティング法」など、企業が商品企画を行う際にどのようなことをしているか詳しく教えていただいた（資料５）。振り返りには「普段購入している商品はさまざまな過程を経てつくられているということを知って、商品を企画したり、販売したりすることは簡単なことではないとわかった」「目的を明確にしたり、ＣＴＰＴマーケティング法を使ったりして、いろいろな面から考えることが大切だと思った」など、さまざまな視点で記述されていた。



【資料５　ファインシンターの方の話】

〈第５・６時〉コミュニティカフェの新商品を企画しよう

これまで学習してきた内容をもとに、パフォーマンス課題に取り組む時間を設定した。商品企画の根拠となる資料を収集したり、社会的な見方・考え方を働かせながら考えを構築したりする姿や、意見交流し、よりよい企画となるように考えを練り直しながらパフォーマンス課題に取り組む姿が見られた（資料６）。

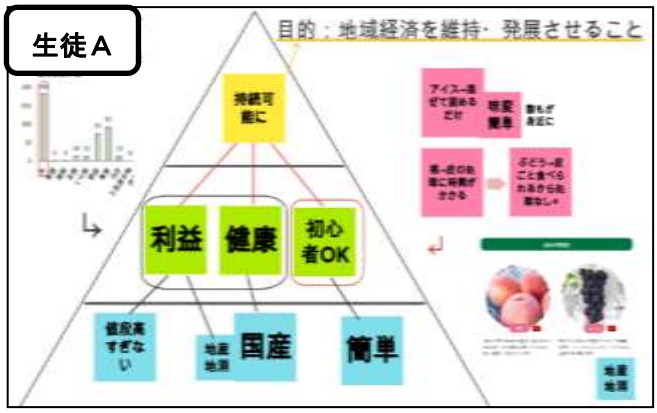


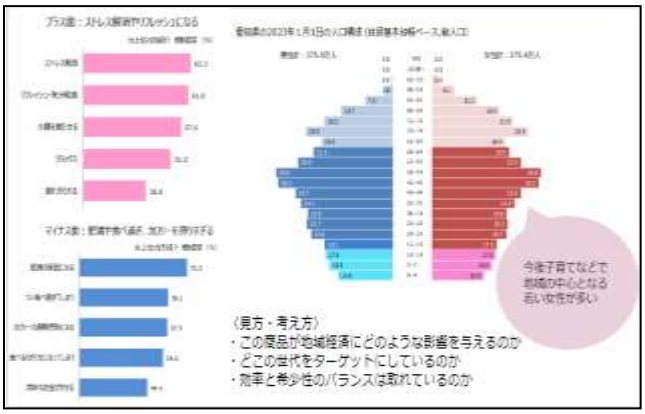
【資料６　パフォーマンス課題への取り組み】

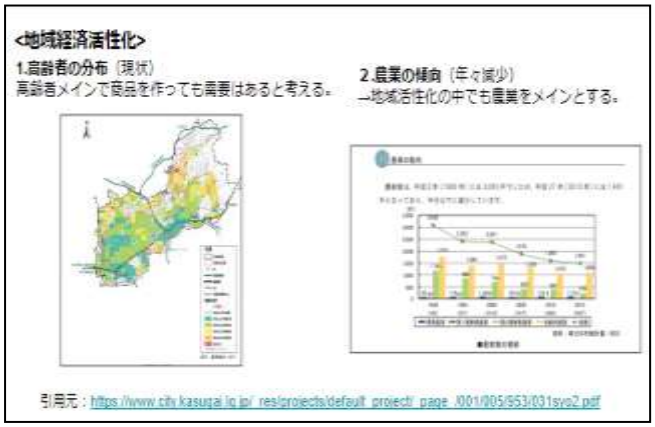
〈第７・８時〉班で企画書を作成しよう

はじめに、前時でそれぞれがまとめた商品の企画を、根拠となる資料とともに班の中で発表した。次に、ピラミッドランキングを活用し、企画書を作成する上で重視する視点を話し合い、班で一つの企画書を作成した（資料７）。

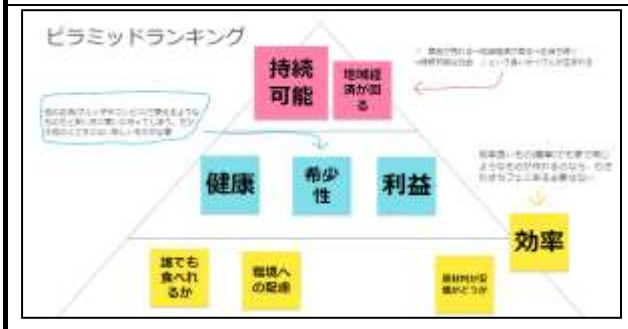
各生徒のまとめた根拠となる資料や見方・考え方







話し合って作成されたピラミッドランキング



【理由】持続可能な商品なら、店をずっと続けていくことができて、次の世代にもつなげていくことができる。また他のお店や家でもつくれるようなものだと、わざわざお金を出して買おうとは思わない。誰かに買ってもらわないと利益が生まれなくなり、地域経済が回らなくなってしまうから、希少性や利益は重要だと思う。そして、効率を意識して地域の労働力を生かして簡単につくれる商品にした。

班で作成された企画書

商品名　米粉のパンケーキ

米粉のパンケーキはファミリーを対象にした。愛知県は子育て施設が充実してきているため、これからも子育て世代が年々増加していくとことが予測できる。こうした世代をターゲットにしながら、高齢者も含めて誰でも食べられる商品をめざした。また、お米の生産が春日井市で盛んなことに着目し「米粉」を用いたパンケーキにした。地元でつくられている「米粉」を使うことで、地元でどのような食材がつくられているのか知る機会になり地域の絆が深まると考えた。そしてアレルギー８品目に入っている小麦を使わないことで小麦アレルギーの方でも安心して食べられる商品にした。

【資料７　生徒Ａを含んだ班の話し合い活動】

〈第９時〉西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか考えよう

前時に班で作成した企画書を発表した後、単元を貫く課題である「西藤山台小学校跡地がどのような場所になるとよいか」について自分の考えを練り直す時間を設定した（資料８）。その後、単元を通しての振り返りを共有し、まとめとした。

	第　１　時	第　９　時
生徒Ａ	高蔵寺ニュータウンは少子高齢化もすすんでいて、お年寄りなどの集まる場所も少ないと思う。そこで、このような施設をつくろうと考えたことはよいと感じた。でも、高齢者だけが過ごしやすい施設ではなく、もう少し私たちの意見も取り入れて施設をつくってくれたらよいと思った。	「誰かだけ・今の人たちに」ではなく「全員が・今後の人たちに対しても」というように一人も残さない、「ごちゃまぜのまち」をつくるための最初の場所になるとよいと思った。また、いろいろな人が集まり、集まった人が安心して過ごせる、交流することを楽しめるということがとても重要だと思う。
生徒Ｂ	高齢者のことだけを考えた施設ではなく、学生も利用しやすい施設になってほしい。確かに少子高齢化の世の中だけど、高齢者のことだけ考えた施設ばかりつくっていると、将来、子どもを連れて春日井市に住みたいという人が少なくなるし、悪循環が続いてしまう。未来につながる施設になってほしい。	高齢者も含めたすべての世代が集まって、地域の活性化をめざすような場所になってほしいと思う。この先増えていく高齢者から、この先春日井に来てくれるかもしれない子育て世代の親や子どもまで、すべての人が楽しめるような場所になれば、旧西藤山台小学校の人たちも喜ぶと思う。そのためには、全世代が楽しめて、なおかつ、地域の活性化の手助けになるような商品を売るコミュニティカフェになってほしい。

【資料８　単元を貫く課題に対する生徒の意見の変容】

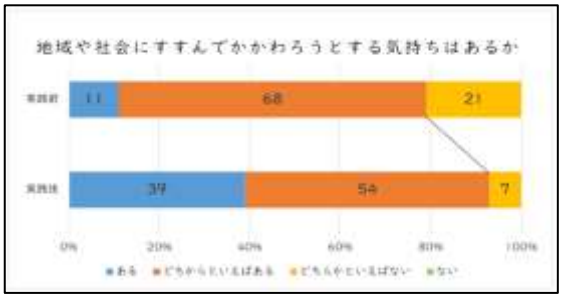
単元を通した生徒の振り返り
・はじめは「持続可能な商品がよいのでは」と簡単に考えていたけれど、商品企画をしてみて、その大変さがわかってきた。話し合っていくうちに「どうすれば持続可能になるのか」みんなで意見を出し合い、悩んだ。商品の企画を通して地域経済を活性化することの難しさと楽しさを学んだ。 ・ノキシタプレイスに合った商品を企画する上で何を大切にするか、多面的・多角的な視点で考えた。一番重視したことは「持続可能性」。経済面から考えるとノキシタプレイスが続いていかなければ、地域ごと衰退してしまう可能性もある。この地域のためにも長く続く場所になってほしい。

(6)　考察

ア　ゲストティーチャーの活用を通して、社会的な見方・考え方を育むことができた。課題の解決にむけて育んできた見方・考え方を働かせて、事実をもとに多面的・多角的に考察、構想したことを説明したり、根拠をもとに自分の意見を論述したりすることにより、持続可能な社会をつくるために、地域経済はどのような役割を果たすべきか理解を深めることができた。

イ　パフォーマンス課題を設定することで、社会的な見方・考え方を働かせながら課題に取り組むことができた。課題を追究していく過程で、重視する視点が変化したり、見方・考え方の解釈が深まったりするなど、課題解決にむけて活動する姿が見られた。また、社会的な見方・考え方を働かせながら対話的な活動に取り組むことで、考えを広げたり深めたりすることができた。特に単元を貫く課題での記述の変容を見ていくと、自らの思いや願いをもとに、西藤山台小学校跡地について構想、創造する生徒が増え、深い学びの実現につながった。

ウ　地域や社会にすすんでかかわろうとする気持ちが「ある」「どちらかといえばある」と答えた生徒の割合が増加し、特に「ある」と答えた生徒は、11%から 39%に増加した。アンケート結果や生徒の変容を見ていくと、社会的な見方・考え方を働かせ、深い学びを実現すれば、主体的に社会にかかわろうとする生徒を育成することができた（資料９）。



【資料９　生徒の意識の変化】

６　研究のまとめ

わたくしたちは、子どもの追究意欲を高められる社会的事象を教材化し、子ども自身が課題を見つけ、課題解決にむけて考えを構築し、対話を通してその考えをより明確にしたり、練り直したりする授業実践に取り組んできた。本実践では、子どもが解決したいと思うような切実な課題をもたせることで、社会的事象への関心が高まった。また、協働的に資料を読み取ったり、当事者の話を聞いたりして、見方・考え方を働かせて社会認識を深めることができた。さらに、他者との対話を通して、自分の考えを多くの人が納得できるように根拠を示しながら話したり、他者の考えを聞いて自分の考えを練り直したりして納得解を見出そうとする姿が見られた。これらの活動を通して、社会認識を深めるとともに、よりよい社会づくりへ参画するために必要となる力を育んでいくことができた。本年次の成果を生かし、これからも研究をすすめていきたい。